

小児に用いられる主なぜん息薬 ホームケア用

主な長期管理薬 (コントローラー)

監修 赤澤 晃先生
国立成育医療センター総合診療部

薬の種類	効能	用法	副作用	主な商品名
吸入ステロイド薬	気管支の炎症をおさえる	吸入	咽頭刺激感、咳嗽、しゃがれ声、口腔カンジダ症など	 フルタイトディスクス50 フルタイトロタディスク フルタイトエア-50 キュバール50エアゾール アドエア100ディスクス パルミコート吸入液0.25mg・0.5mg
ロイコトリエン受容体拮抗薬	気道の炎症を引き起こして気道を収縮させるロイコトリエンの働きをおさえる	飲み薬	発疹、下痢、腹痛、肝機能障害など	 オノンドライシロップ オノンカプセル シングレア細粒4mg シングレアチュアブル錠5mg キプレスチュアブル錠5mg キプレス細粒4mg
抗アレルギー薬	肥満細胞からの化学伝達物質の放出をおさえ、アレルギー反応をブロックする	吸入	咽喉頭の刺激感、咳の誘発、咽喉頭痛、発疹など	 イーヘラー器具 インタール吸入カプセル インタールエアゾールA インタール吸入液
		飲み薬	肝機能障害、発疹、胃腸障害、頭痛、出血性膀胱炎など	 アレギサル錠5mg・10mg アレギサルドライシロップ ロメット小児用細粒 リザベンカプセル リザベンドライシロップ5%・0.5g リザベンドライシロップ5%1g リザベン細粒10%・0.5g リザベン細粒10%1g ベミラストン錠5mg ベミラストン錠10mg ベミラストンドライシロップ0.5g・1g
ヒスタミンH1拮抗薬	肥満細胞からの化学伝達物質の放出をおさるとともに、ヒスタミンの働きもおさえる	飲み薬	眠気、けいれん、興奮、錐体外路症状、倦怠感、しびれ感、悪心、嘔吐、腹痛、発疹など	 セルテクトドライシロップ ゼスランシロップ/細粒 ニボラジン小児用シロップ ザジテンドライシロップ0.4g ザジテンドライシロップ0.6g ザジテンドライシロップ1g ザジテンシロップ ザジテンカプセル
Th2サイトカイン阻害薬	アレルギー炎症をおこす物質サイトカインの産生をおさえる	飲み薬	嘔気、胃部不快感、下痢、眠気、頭痛、発疹、肝機能障害など	 アイビーディドライシロップ0.75g アイビーディドライシロップ1.5g アイビーディカプセル50mg・100mg
キサンチン系薬	ゆっくり溶ける作用時間の長い薬で気管支の炎症をおさえる。気管支拡張作用もある	飲み薬	悪心、嘔吐、興奮、食欲不振、頻脈、下痢、不眠、不安、頭痛、けいれんなど	 テオドール錠 テオドールドライシロップ テオドールG顆粒20% テオロング錠50mg
テオフィリン徐放製剤				
気管支拡張薬	交感神経を刺激して気管支を広げる。長時間効果が持続する(必ず吸入ステロイド薬と一緒に使用する)	飲み薬/吸入/貼付	動悸、不整脈、頭痛、手のふるえ、睡眠障害、嘔吐、食欲不振など	 セレベントロタディスク セレベント50・ディスクス ホクナリンテープ0.5mg・1mg・2mg メブチンミニ錠25μg スピロベント錠
長時間作用性β2刺激薬				

*薬は、エビデンスレベルの高低による順序とした。

*1 化学伝達物質遊離抑制薬：中等度持続型以上の小児に対する肺機能改善率は吸入ステロイド薬に劣るため。

*2 ヒスタミンH1拮抗薬：他の抗ぜん息薬と比べ比較試験などのエビデンスが少なく、現時点では長期管理薬としての位置づけは確立されていない。

*3 Th2サイトカイン阻害薬：小児では報告が少なく、長期管理薬としての位置づけは今後の課題である。

*4 テオフィリン徐放製剤：作用は不明な点が多い。

小児に用いられる主なぜん息薬

主な発作治療薬

ホームケア用

発作が起きたときに使う薬 いつも使用している薬のほかに追加して使います

薬の種類	効能	用法	副作用	主な商品名
気管支拡張薬	交感神経を刺激して、気管支を広げる	吸入	動悸、不整脈、頭痛、手のふるえ、睡眠障害、胸の不快感、嘔吐、食欲不振など	 ベネトリン吸入液  サルタノールインヘラー  メブチンキッドエア  メブチンクリックヘラー  メブチン吸入液ユニット  アイロミール
短時間作用性β ₂ 刺激薬		飲み薬		 ベネトリン錠  ベネトリンシロップ  ホクナリンドライシロップ  ホクナリン錠 1mg  メブチンシロップ5μg  ベラチンドライシロップ
経口ステロイド薬	気管支の炎症を抑える	飲み薬	長時間連用すると副腎機能不全、身長伸びの低下、多毛、白内障、高血圧など	 ベロテック錠  ベロテックシロップ  アトック錠  アトックドライシロップ  プリカニール錠  プリカニールシロップ  メブチンミニ錠 25μg  スピロベント錠
				 プレドニン錠  リンデロン錠  リンデロンシロップ  デカドロン錠  メドロール錠

発作が
起きたときは

- あわてずに児童の状態をよく観察し、発作の程度を判断する。
- 体温、またできればピークフロー値を測定する。
- 水分を補給する。
- 腹式呼吸をさせる(日頃からの練習が前提)。
- 呼吸困難があるときは上体を起こす。
- 小発作・中発作のときはβ₂刺激薬の吸入か、飲み薬を用い、反応をみる。
咳き込み、ぜん鳴、努力呼吸などの変化をめやすにする。反応が悪い場合は医療機関を受診する。
- ふだんから発作時の対応について保護者と取り決めておく。